

飼料用米を活用した循環型農業の取組

(京都府)

取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
			○		消費者理解の醸成

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 等該当するものを記入

<取組主体について>

- 所在地：京都府
- 概要：京都生協を中心とした京都府下6市町の飼料用米生産農家（令和2年産：約20ha、108t）と2養鶏農家による鶏卵販売・流通のスキーム。



販売された商品

<取組について>

○ 概要

- 京都府内の休耕田で生産した飼料用米を京都府内の養鶏場で鶏に給餌し、卵を京都生協の組合員が利用する地産地消の取組であるとともに、耕作放棄地の拡大を防止。
- 平成22年2月から「さくらこめたまご」として試験販売し、平成23年秋からは通年販売を実施（32.5万パック（10個パック換算）、供給高：約8千万円）。
- 飼料用米を作付する田には鶏ふん堆肥を還元。

○ 成果

- 飼料用米の配合率を10%以下に抑えることにより食味や色が変わらない日常的な卵として普段の販売価格により販売。
- 販売価格は卵1個あたり1円を上乗せした価格とし、これにより得られた応援金を生産者に還元（令和3年：約325万円）。
- 「飼料自給率の向上」、「水田の有効活用」等に消費者も貢献することが可能であることをアピールすることにより、循環型農業による畜産物の生産を積極的に推進。

○ 今後の課題

- 「さくらこめたまご」利用向上の取組。

